

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：36201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17233

研究課題名(和文)中国都市部地域コミュニティにおける住民情報の伝達システムに関する研究

研究課題名(英文) Study on transmission system of resident information in urban regional community of China

研究代表者

羅 佳 (LUO, JIA)

四国学院大学・社会福祉学部・准教授(移行)

研究者番号：70637909

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、関連する実践がある中国都市部の地域コミュニティ「社区」で取り組んでいる住民の情報伝達の仕組みを明らかにするために現地で情報収集を行った。住民情報の伝達システムの共通基盤として、社区における「グリッド化管理」、拠点となる施設、ソーシャルワーカーの役割があげられる。そのほか、社区に根付いている共産党組織や社区の形成時期や住宅形態による住民層の違いなども考察する際の重要な参考要素であることが指摘できる。

研究成果の概要(英文)：In this study, gathered information on the site to clarify the mechanism of the information transmission of the residents working in the local community "urban district" in the urban area of China with related practices. As a common foundation of the community information communication system, "gridization management" in the company district, the facility serving as the base, the role of social worker can be mentioned. In addition, it can be pointed out that it is an important reference factor in considering the time of formation of the Communist Party organization and the company district rooted in the company district and the difference of the residents' population due to the housing form.

研究分野：社会福祉

キーワード：中国都市部の社区 情報伝達 ネットワーク 信頼関係

1. 研究開始当初の背景

高齢者や障がい者が住み慣れた地域で暮らし続けることの実現には、地域福祉におけるコミュニティケア、ローカルガバナンス、住民組織活動、社会福祉専門職の役割等は重要な論点となる。しかし、地域福祉におけるこれらの構成要素を地域レベルで展開する際、地域住民の生活状況の把握と住民から支援へのアクセスの双方向において、地域レベルの情報伝達システムが不足している。IT技術の進行により情報が溢れる現代社会では、如何に個人情報を守りながら、地域コミュニティという小地域の中で住民の情報を管理し伝達するシステムを形成していくのかは、地域コミュニティレベルで高齢者や障がい者を含めて、一人ひとりの住民の生活ニーズに対応し、住み慣れたまちで暮らせるために解決すべき重要な課題となっている。

このような課題の解決策を模索するために、研究代表者は2006年より、継続してきた中国都市部の地域コミュニティに関する研究調査を行ってきた。

中国では、1980年代から始まった「改革開放」政策の実施より、経済成長を実現してきたとともに、高齢化社会から高齢社会への移行、障がい者の地域生活の実現、都市部の失業者の増加、都市部と農村部の貧困者への生活保障等の様々な社会問題が生じている。また、中国都市部における様々な社会問題は都市部を構成する地域コミュニティに集中しており、「社区」と呼ばれる地域コミュニティが取り組む問題ともなっている(中国語の中の「社区」という言葉は、1930年代に英語の「community」から訳された言葉で、今日の中国都市部における地域を基盤とする福祉サービス供給の地域を指す)。中国政府は都市部で生じた社会的諸問題に対応するために、社会保障制度の再編を行ないながら、1980年代後半より、コミュニティケアやコミュニティづくりが中心となった社区福祉を推進してきた。研究代表者が2006~2014年の間、中国都市部の社区における生活問題の発見や解決に関する機能について、中国での現地調査を行ってきた。調査結果から、中国都市部における社区福祉の構成要素は、日本の地域福祉における構成要素であるコミュニティケア、ローカルガバナンス、住民組織活動、社会福祉専門職の役割等と重なる部分が多いとすることを明らかにしてきた。したがって、本研究は、日本の小地域における住民情報の伝達問題の解決策を探るために、日本への応用を中国都市部の社区福祉における住民の情報伝達システムの具体的な仕組みを明らかにしていく。とりわけ、情報保護という「規制」の部分、および必要な情報へのアクセスという「流通」の部分の機能させる仕組みを明らかにする。本研究で用いる住民情報とは、住民の基本属性に関する情報と住民の必要な情報の双方が含まれる。

2. 研究の目的

昨今の日本社会では、日常の支援においても災害対策の一環としても、地域住民の生活ニーズの把握と住民からの支援へのアクセスの双方向において、地域レベルの情報伝達システムの構築が求められる。本研究は、中国の地域コミュニティ「社区」で行なわれている情報伝達システムを日本の地域コミュニティで応用する視点をを用い、地域コミュニティにおける住民の情報伝達システムの構築を目的とする。その方法として、「規制」と「流通」の2つの要素に着目し、小地域における住民の情報伝達システムを通して、住民の福祉サービスへのアクセシビリティ、行政・NPO・住民によるガバナンス、住民組織活動、社会福祉援助専門職の側面から検討を行う。

3. 研究の方法

本研究は、中国都市部の社区へ訪問し、社区居民委員会、「社区服務センター」や「社区服務ステーション」(ワンステップサービスに近いサービス提供拠点)の責任者、あるいは職員に対するインタビューを通して、社区の概要を紹介していただいてから、ニーズに対応するサービスを提供するために、住民の情報をどのように把握しているのか、住民が知りたい情報を住民側からどのようにアクセスするのか等について、情報収集を行なった。

中国の北京市、長春市、南京市にある数カ所の社区を訪問した。訪問先は、大きく分けると、住民自治組織と呼ばれる「社区居民委員会」と、住民の不便を解消するサービスを提供する「社区服務センター」、「社区服務ステーション」の2種類となる。訪問先の受け入れ体制により、数日間か連続して同じ社区に訪問することを受け入れてくれる社区もあれば、2時間の見学とインタビューを行って情報を収集した社区もある。また、南京市では、社区を訪問し、社区居民委員会の主任や住民と座談会および社区活動展示室の見学を通して、社区の概況や住民活動の取り組みなどについて把握した方法も用いた。

4. 研究成果

1) 社区を訪問して事例収集を通して明らかにしたこと

(1) 住民情報の伝達システムの共通基盤
社区における「グリッド化管理」

2004年あたりに、北京市では都市管理の中に「グリッド化管理」が導入され、その後全国の都市部に広がった。1つの社区をいくつかの小地域に分けて、住民自治組織や住民の中の協力者によって、社区内の住民に関する様々な情報を把握し、ソーシャルワーカーと呼ばれる専門職によって管理されている。1つの社区をいくつかの小地域に分けられているが、ここでいう「小地域」はその社区の住宅の形態によって異なる。平屋地域では、

戸数で分けることがあるが、集合住宅が集中している地域では、建物1棟で1つの小地域に分けられることもあれば、建物1棟の中に2つの小地域に分けることもある。この「グリッド化管理」が社区に根付いている実態について、本研究で訪問した北京市、長春市、南京市の社区の中、いずれの社区においても確認することができた。「グリッド化管理」の仕組みでは、社区居民委員会の役員、社区服務センターか社区服務ステーションのソーシャルワーカー（職員）がそれぞれに担当する小地域に対し、定期的に担当地域に出向いたり、日ごろに協力してくれる住民と連絡を取ったりして、把握している情報を更新するなど取り組んでいる。

また、「グリッド化管理」を活用して、北京市のN社区とB社区、長春市のC社区とD社区では、具体的に住民に関するどのような情報をどなたがどのように把握しているのかについて把握することができた。

例えば、北京市のN社区と長春市のC社区では、住民の個人情報に関するシートを作られている。長春市のD社区では、把握している住民の個人情報をデータ化し、社区服務センターの職員の中で共有できるようにITシステムが作られている。それらの情報にアクセスできるのは、この社区服務センターに配置されているソーシャルワーカーのみである（ただし、ここのソーシャルワーカーと呼ばれる職員はソーシャルワーカー国家資格を取得していてもソーシャルワーカーと呼ばれている）。アクセスする際、パスワードを求められ、アクセスするパソコンは社区服務センター内のパソコンからのみと設定とされている。

都市部社区の中の拠点となる施設

本研究で訪問した北京市、長春市、南京市の社区ではいずれも拠点となる建物がある。地域によって、社区居民委員会の事務所が設置されている建物であり、社区服務センターか社区服務ステーションと呼ばれるワンストップに近いサービス提供拠点の建物である。このような拠点は地域の中では、例えば屋上に大きな文字で表記したりして分かりやすく建物の場所を示している。住民は自分の生活している社区にあるその拠点となる建物に訪れると、社会保障の制度や社会福祉のサービスに関する情報を含めて、各種公共サービスの手続きを行なうこともできる。また、拠点によって、高齢者向けのデイサービス機能を果たすエリアを設けられている社区もある。住民は日頃に公共サービスの手続きをすることから、社区の拠点で働くソーシャルワーカー（職員）との間に信頼関係を築くことができると考えられる。

社区に根付いている共産党組織

共産党組織が都市部の社区に根付いている。本研究で訪問した社区の居民委員会の主

任がほとんど共産党員で、社区居民委員会の役員の中にも共産党員が少なくない。とりわけ、長春市C社区の社区居民委員会の主任は共産党員で、日ごろには、地域の中に出向いたり、住民からの相談を受けると家庭訪問をしたり、話し相手になったりして、社区の住民と顔の見える関係を築いている。

また、南京市のX社区では、社区居民委員会の主任や住民と座談会を通して、社区の概況や住民活動の取り組みなどについて紹介していただいた。座談会に参加した住民は、定年退職した方がほとんどで、その中には、現役の時代から共産党員である方が多かった。

このように、住民と社区居民委員会の役員との間に、日ごろから共産党組織を通して信頼関係を築いている。このことは、中国都市部の社区における住民情報の伝達における「信頼」という構成要素を考察する際に参考になると考える。

(2) 社区ごとに状況が異なる

本研究で訪問した都市部の社区は、それぞれの建設時期が異なり、また、それぞれの建設された地域特性や住宅形態等によって、社区の住民間の人間関係も異なる。例えば、南京市のX社区では、住民の中の多くは現役時代では同じ職場の人が多い。北京市のB社区の圏域の中に、低所得者が集中している暮らしているエリアと高所得者層が集中している高級マンションが1つの社区の中に混在している。長春市のC社区では、平屋エリアと集合住宅の集中しているエリアが混在している。これらの要素は、社区の住民の信頼関係やネットワークづくりを考察する際に、さらに今後アンケート調査を行なう時のサンプリングに参考する要素があると考えている。

(3) 多様な情報管理の方法

2016年8月中旬、中国・北京市の朝陽区にある「養老指導センター」を訪問し、センター長に対するインタビューを通して、朝陽区の高齢者向けサービス供給の概況と特徴に関する情報を収集した。当センターで取り扱うサービス利用者の情報、およびサービス提供者の情報に関する管理は外部委託していることを明らかにした。

また、当センターを中心に網状に形成している社区の中で設置されている拠点を数カ所か訪問し、高齢期になっても住み慣れた地域コミュニティの中で暮らしを支える各拠点の実践の現状と課題を確認することができた。

2) 国際会議に参加して把握したこと

2016年9月(10・11日、大分大学)と2017年9月(16・17日、中国・南京大学)に開催された社会保障国際論壇(第12回、第13回)に参加し、中国に関する報告より、中国にお

ける社会保障の概念、社会福祉の実践、社会保障の中身の充実などの側面から、最新の実践や研究成果および政策動向について把握し、都市部社区における住民のニーズに対応する取り組みを考察する情報を把握することができた。

3) 残された課題

本研究では、中国の地域コミュニティ「社区」で行なわれている情報伝達システムを日本の地域コミュニティで応用する視点を用い、日本への援用を視野に入れた日本の小地域で形成する住民情報の伝達システムの構造を提示することを当初のねらいとしていた。しかし、実際には、今回はそこまで到達することはできなかった。今後は、日本の小地域で形成する住民情報の伝達システムを提示するように、日本の小地域でどのような取り組みを行っているのかという実態を明らかにする研究を行なう必要があるかと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

羅 佳「中国大都市部における高齢者向け社会コミュニティ・ベースド・サービスへの転換をめぐる課題」『中京大学現代社会学部紀要』第9巻第1号、147-174、2015。

羅 佳「書評 郭芳著『中国農村地域における高齢者福祉サービス 小規模多機能ケアの構築に向けて』」『同志社社会福祉学』第29号 129-131、2015。

羅 佳「高齢化社会における中国大都市の社会サービスの実態に関する研究：北京市の取り組みを通して」四国学院大学論集(154)、41-57、2018。

〔図書〕(計2件)

羅 佳「動向：社会保障・医療制度」『中国年鑑 2016』中国研究所、総ページ数 523(247-250)、2017

羅 佳「動向：社会保障・医療制度」『中国年鑑 2015』中国研究所、総ページ数 496(249-252)、2016

6. 研究組織

(1) 研究代表者

羅 佳 (Luo Jia)

四国学院大学・社会福祉学部・准教授

研究者番号：70637909